

レパトリー——我々を映す鏡

この春から、キラリふじみは5人のアソシエイト・アーティストをあらたに迎え、富士見の市民にとって文化的な共有財産となるような舞台芸術の作品を創造していきます。

私たちは芸術監督とアソシエイト・アーティストによって創りだされる舞台作品をキラリふじみの〈レパトリー〉と位置づけ、それを繰り返し上演するとともに、日本の各地へ出かけていき他の公立劇場で上演することを目指します。

そもそも劇場のレパトリーとはなんでしょうか？ ひとことで言えば、それは人間と歴史、共同体とその文化を映し出す〈鏡〉です。それは劇場を訪れる市民が、日常では意識することのない自分たちの本質的な姿に向きあい、みずからの価値観や可能性といったものを再発見することを手助けしていきます。そしてその発見は、多様な考えを持った人びとが一堂に会し舞台作品を共有する〈劇場〉という公共空間のなかでのみ生まれる特別な体験なのです。

また私たちはみずから創るだけでなく、他の地域や海外からも、そこに暮らす人びとの文化が結実した優れたレパトリー作品を招いて観客に提供していきます。

ただしキラリふじみのレパトリー作品は、専門家だけが創りだすものではありません。私たちは、アーティストとともに市民が舞台作品を創造するプログラムを展開していきます。

そして、以上のことで富士見という地域に固有性をもった市民文化が花開き、成長していくための土台づくりの活動を行います。

富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ
館長 松井憲太郎

「繋がる」から「育つ」へ

昨シーズンは、芸術＝人、劇場＝地域、富士見＝世界など「繋がる」がテーマでした。今シーズンは様々な「繋がり」から生まれた芽の栄養になるよう、「育つ」がテーマです。ワークショップなどの体験企画はもちろん、子ども向け作品の充実、スタンダードから現代的な作品まで多様な作品が国内外から揃いました。

特に新たに迎えるアソシエイト・アーティストの活動にご期待ください。上演、観劇という一回きりの関係ではなく、市民とアーティストが共に時間を過ごし、歩んでいける継続的な活動を目指します。是非彼らと共に地域をもり立ててください。

芸術監督作品としては清水邦夫さんの『あなた自身のためのレッスン』を多彩な俳優陣と創作します。市民ホールを舞台に、家族のロールプレイを通じて人の繋がりや芸術をも問う作品です。富士見はもちろん全国、その先にも届く作品にしようと企画を進めています、どうぞご期待ください。

私自身も作品を通じて世界と繋がりたいと願い活動していますが、それは私がではなく、観客それぞれが自分や世界と出会い繋がることです。芸術の楽しみは、正解探しではなく、自分がどう感じるかを大切にすることです。それは正解のない現代、多様な情報から取捨選択をして生きていくために、とても大切なことでしょう。今我々に、芸術は必要なのだと強く感じています。

キラリふじみは、様々な人たちがその数だけ様々な世界と出会い、未来に向けて育つ場所です。

芸術を身近に、そして、世界へ。芸術監督二年目どうぞよろしくお願い致します。

富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ
芸術監督 多田淳之介